

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12014	考古学	2 単位 前期	1~4	講義	菅原 広史 (非)

■テーマ 考古学に触れ、歴史と「モノ」への視座を学ぶ

■授業の概要

考古学とは、過去の人々が残した痕跡（モノ）を通して、当時の人々の生活や社会の様相を復元し、様々な時代の様相を復元する歴史学の一つである。考古学が扱う資料は、地面に埋没したかつてのヒトが居住した空間であったり、ヒトが作り用いた道具である。これらは物言わぬ「モノ」であり、それがどのようなことを意味するかは、我々が理解・解釈せねばならない。考古学に携わる研究者は、これら多様性あふれる「モノ」に向きあい、歴史を明らかにするための理論の構築や資料の収集に努めてきたと同時に、考古学のみならず文献史学・人類学・民俗学・地質学・建築学・生物学など人文科学・自然科学から様々な分野の知識・方法を用いてきた。一つの「モノ」に込められた情報を引き出すために、多角的観点からのアプローチが有用であることを理解することが本講の目的である。

授業では考古学の概念や方法論を紹介すると共に、南島（沖縄）考古学からみる沖縄の歴史を、実際の出土資料に触れながら学ぶ。

■到達目標

- ・「考古学」の研究方法を知る
- ・身の回りにある、考古資料に気づく
- ・「考古学」を通し「モノ」を理解するための多角的な視点を得る

■授業計画・方法

1. ガイダンス
2. 考古学とは何か
3. 発掘調査とは何か
4. 考古資料から年代を探る
5. 考古学と人文科学
6. 考古学と自然科学
7. 南島考古学の世界①（旧石器時代）
8. 南島考古学の世界②（貝塚時代）
9. 南島考古学の世界③（グスク・琉球王国時代）
10. 南島考古学の世界④（近現代）
11. 遺跡はどこにあるか
12. 遺跡をめぐる
13. 遺跡の記録とデジタル技術
14. 考古学と埋蔵文化財
15. 定期試験

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・学期中に「遺跡」または考古資料が展示されている博物館・資料館等を訪れ、それぞれ感想をまとめたレポートを提出する。提出時期は、授業中に指示する。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（受講態度・コメント・質疑）40%、レポート40%、期末試験20%で評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

必要に応じてその都度配布する